

OECD/DAC
 CPDC (紛争、平和と開発協力ネットワーク)
 FSG (脆弱国家グループ)
 の活動について

平成18年11月16日
 平和構築フォーラム 第7回セミナー
 JICA社会開発部
 小向

CPDCの背景

1995年、DAC上級会合での合意に基づき、紛争前・中・後の各段階において開発協力が果たす役割を検討するための「**紛争、平和と開発協力タスクフォース**」を設置。

「紛争、平和と開発協力DACガイドライン」採択(97年)

- ・ 暴力無しに紛争を回避できる能力を強化することは持続可能な開発の基礎であり、開発援助も(予防)外交、軍事(行動)、経済(制裁)等の方策に加えて紛争予防と平和構築において役割を果たすべき
- ・ 平和構築を紛争前、紛争中、紛争後における長期的な予防手段と迅速な対応の両方を含む概念として紹介
- ・ 紛争の各段階における開発援助の役割をまとめ、今後開発援助機関が具体的にどのようなアクションを取るべきか、についても明示

CPDCの経緯

「紛争、平和と開発協力タスクフォース」は所期の目的(主たる目的はガイドラインの策定)を達成したとして解散(2000年12月)

「紛争予防DACガイドライン(97年ガイドラインの補足)」採択(2001年)

「紛争、平和と開発協力ネットワーク(CPDC)」発足(2001年)

CPDCの主たるテーマ

- ・ 開発援助における紛争予防・平和構築の考え方の浸透
- ・ 途上国における治安システムの改革(Security System Reform)
- ・ ビジネスや環境と紛争の関係などに関する認識の深化
- ・ 上記課題の成果普及、具体的な援助活動への反映 等

JICAは99年5月より、タスクフォース会合に出席

CPDC第10回会合

議題

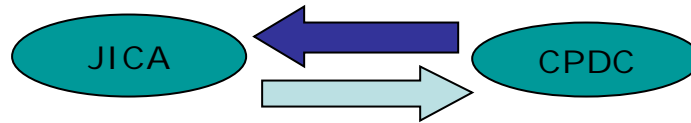
- ・ 治安システム改革(SSR)
- ・ 紛争予防・平和構築プログラムの評価
- ・ CPDC活動の成果普及
- ・ 他のDACネットワークとの連携
- ・ 2007-08年の活動計画 等

2007-08年の活動計画(案)

暴力、治安と開発
 紛争予防・平和構築活動の評価
 早期警告、予防行動、集団的対応
 紛争予防・平和構築・SSRにかかる普及・研修活動
 他のグループとの連携強化

JICA と CPDC

DACガイドラインのJICA政策文書・研修教材等への活用
紛争、平和と開発協力にかかる国際場裏における議論の把握
他機関(バイ・マルチ)とのネットワーク形成 等



分析ツール(PNA)、取り組み事例の紹介
各種セミナーへの人的貢献
啓蒙用資料(tip sheet)作成への参画 等

紛争予防・平和構築プログラムの評価 - 1

JICA問題意識

平和構築支援: 援助実施上のリスク要因多様

1. 支援が政治性を帯びやすい
2. 治安が不安定で援助実施に障害
3. 現地の人材が払底

特に紛争経験国では半数近くが5年以内に紛争が再発
援助効果が現れにくい

CPDCの活動

- ・ 「紛争予防と平和構築活動の評価にかかるDACガイダンス(ドラフト)」作成 (10月発表)
- ・ 「紛争予防と平和構築活動の評価ワークショップ」(11 - 12月、オスロ)
- ・ 途上国において1 - 2年間の事例研究(2007-08)
- ・ 「DACガイダンス」策定(2007-08)

紛争予防・平和構築プログラムの評価 - 2

DACガイダンス(案)ポイント

- 紛争予防・平和構築活動にかかる評価の関心が高まっている
- 通常の開発援助の評価とは別の考え方が必要
- 政治的側面を勘案する必要がある
- 治安が不安定な状況・政治的にも安全ではない状況で評価を行わなければならないことがある
- 結果だけでなくプロセスを評価する必要があり、事後評価よりむしろプロセスのモニタリングの方が重要 / 評価に最も適した時期を判断することが重要
- 当該分野の評価には紛争分析の側面が必要
- 紛争状況の変化に従い、プログラムの内容改定も検討
- 評価行為自体が「介入」の要素を含むことに留意
- 「紛争予防」「平和構築」の定義そのものが明確ではない
- 評価結果をフォローアップすることが重要

紛争予防・平和構築プログラムの評価 - 3

= Peacebuilding Needs and Impact Assessment (平和構築アセスメント手法)

紛争の要因や再発要因、復興時特有のニーズに包括的に対応し、
事業の計画・実施・モニタリング・評価において、「紛争(の再発)を予防し、平和を促進する視点 = 紛争予防配慮」を反映する手法

モニタリング・評価での活用



ツール改訂

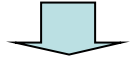
その他のCPDCの活動とJICAの取り組み

紛争予防・平和構築・SSRにかかる普及・研修活動



JICA移行期支援研修の実施(10月、11月)
JICA移行期支援ハンドブックの策定

暴力、治安と開発



当該分野に関するJICA事業(警察分野・司法分野の協力、
除隊兵士支援等)のあり方を検討する際に参考

ESGの背景

2001年の同時多発テロを契機として、DACや世銀において、
テロ対策や安全保障の観点から、脆弱国家やガバナンスの
弱い国家への支援に関する議論の必要性が認識

2002年10月:紛争、平和と開発協力ネットワーク(CPDC)とガバナンス・
ネットワーク(GOVNET)とが連携する形で、「困難なパートナーに関する
会合(LAP: Learning and Advisory Process on Difficult Partnership)」が設置

目的:
脆弱国家への援助に関する共通認識を構築し、
ドナーの効果的な対応を促進する

2005年6月:困難なパートナーに関する会合(LAP: Learning and
Advisory Process on Difficult Partnership)を「脆弱国家グループ
(ESG: Fragile States Group)」に改名

「脆弱な国家に関するシニアレベル会合」(DAC・世銀・UNDP・EC共催)において、「脆弱な国家に対する効果的な国際関与のための諸原則(Principles for Good International Engagement in Fragile States)」の原案が提示(2005年1月)

FSGの主たるテーマ

- ・ 脆弱国家に対する効果的な国際関与のための諸原則
- ・ 脆弱国家に対する全政府(Whole of Government)アプローチ
- ・ 脆弱国家における国家建設
- ・ 脆弱国家への資源配分
- ・ 脆弱国家におけるサービス提供 等

JICAは2002年より、LAP、FSGと
継続的に会合に出席

議題

- ・ 早期警告、予防行動、統合された反応行動にかかる2007-08年活動計画
- ・ 国連平和構築委員会のDACの関与
- ・ DAC下部組織の改革・マンデートの改訂
- ・ 任意提出にかかる新たな手続きの紹介 等

DAC(CPDC/FSG)と国連平和構築委員会との連携を今後深めていくことを検討 ブルンジ、シエラレオネにおいて、これまでDACで蓄積してきた教訓・実施枠組み等を適用

JICA 調査研究「国のリスク対応能力を踏まえた中長期的支援のあり方」：背景・目的

自然災害や経済の悪化、紛争等のダウンサイド・リスクに対する国の対応能力が不十分な国においては、政治的・経済的不安定を容易に惹起しやすい

「恐怖からの自由」の側面から、不安定さの軽減策はどうあるべきか、効果的な開発援助はどうあるべきかを検討

問題意識

- ・ガバナンスの状況、治安状況が悪い途上国の存在
- ・これらの国々が周辺国・グローバルに与える影響
- ・ドナーとしてこれらの国々とのように関係を持つか（good performerではない国々）
- ・他ドナーは9.11後、検討を本格化。冷戦崩壊後の平和構築支援、援助効果向上に求められるガバナンスの議論の延長

JICA 調査研究「国のリスク対応能力を踏まえた中長期的支援のあり方」：構成

総論：「国の脆弱性に応じた援助戦略論」の背景の整理と、国の脆弱さの分析枠組み・支援戦略の検討

各論：復旧・復興支援の日本の経験レビュー（カンボジア）

各論：紛争終結後の移行期における援助協調枠組みの現状と課題（アフガニスタン）

国のリスク対応能力を踏まえた支援の考え方

jica JICA 調査研究「国のリスク対応能力を踏まえた
中長期的支援のあり方」：抽出された課題-1

脆弱国家に対する援助の恣意性

- 投入されるリソースの質・量
= 地政学的条件、天然資源の有無、国際政治の状況、
ドナー側の国内事情、国際世論の動向が影響
- バランスへの配慮
目の前にある脅威に対する支援(対症療法的支援)
中長期的視点に立った支援(社会構造変革のための支援)
援助効果向上を目指す「協調型支援」
visibilityを重視する外交政策上の戦略

DAC/FSG: 脆弱国家への資源配分
脆弱国家に対する効果的な国際関与のための諸原則

jica JICA 調査研究「国のリスク対応能力を踏まえた
中長期的支援のあり方」：抽出された課題-2

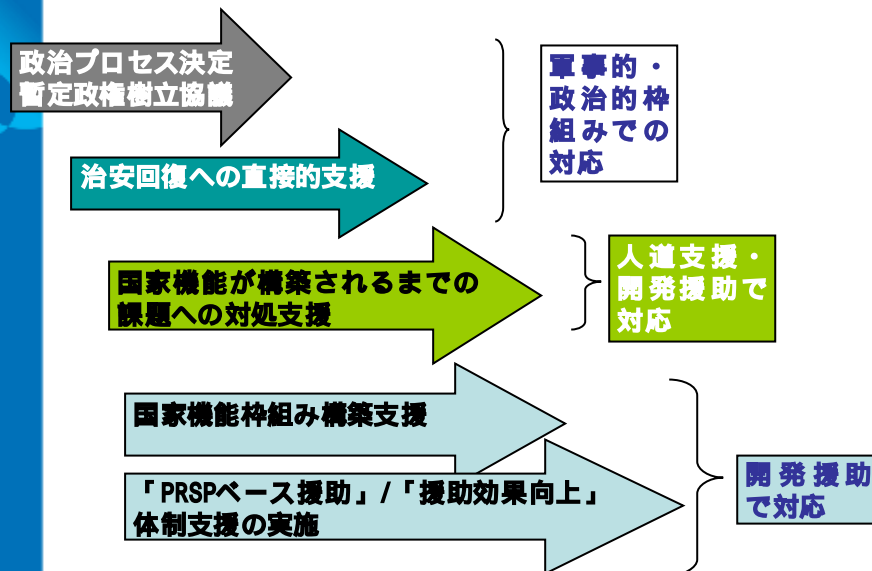
時系列的に対応可能な課題を認識

- シークエンスを考慮して課題を抽出
- 実施可能な領域を明確化
- 外交政策(援助のレベル、様態、期間)に基づいて
pick up

ドナー側自国のアクター間での政策一貫性、ドナー間の調和化が
必要

脆弱国家に対する効果的な国際関与のための諸原則
脆弱国家に対する全政府(Whole of Government)アプローチ

**jica JICA 調査研究「国のリスク対応能力を踏まえた
中長期的支援のあり方」：抽出された課題-3**



**jica JICA 調査研究「国のリスク対応能力を踏まえた
中長期的支援のあり方」：抽出された課題-4**

- 脆弱な国家についての現状・ニーズ分析**
 - ーリスク・リスクに対する脆弱性を的確に把握する努力が必要
 - ー状況の変容に応じた分析作業が必要。目標設定・戦略策定もこれに合わせて調整・改訂
- 人道緊急援助から中長期的開発への適切な移行**
- 援助効果向上**
 - 脆弱国家に対する効果的な国際関与のための諸原則
 - 脆弱国家における国家建設
 - 脆弱国家におけるサービス提供